

1、園の保育目標

- | |
|--|
| ① よく考え、よくみつめる
② よく食べ、よく遊び、健康に過ごす
③ 友達と元気に仲良く遊ぶ |
|--|

2、本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

- | |
|--|
| 1. 保育の質を保ちながら、新しい生活様式を意識した保育を行う。
2. 園内研修では、知識を深め、保育の質の向上に努める。
3. 保護者に寄り添う
4. 低年齢児に起こりやすい事故について、知識を深める。
5. 子どもの気持ちに寄り添った保育を目指す。 |
|--|

3、評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
1. 保育の質を保ちながら、新しい生活様式を意識した保育を行うことはできたか。	排泄時や移動時に担当を更に分けて活動する中で、個々の気持ちを尊重し、丁寧にかかわることができた。また、新しい生活様式を踏まえ、登降園時の保護者の入室をなくすことで、子どもの遊びの環境が保障され、安定して過ごす姿が見られた。
2. 園内研修では、知識を深め、保育の質の向上に努めたか。	外部の講師を迎えた園内研修では、2歳児の絵画から読み取る子どもの姿を学んだ。ドキュメンテーションで保護者にも分かりやすく伝え、育ちのイメージを共有した。
3. 連絡帳や伝達の際、保護者の気持ちを汲み取り、対応できたか。 ・保護者の不安や思いに寄り添えたか。	低年齢児の子どもの育ちを家庭と共有するために、ドキュメンテーションやアプリで発信し、保育の可視化に努めた。また、連絡帳では、保護者の気持ちを汲み取ることを意識し、家庭との情報交換に努め、クラスだよりなどに活かすことができた。
4. 研修（AED/誤嚥）を通して緊急法が身に付いたか。	春・秋2回、看護師監修のもと、SIDS・誤嚥研修を行った。実際に他園で起こった事故の事例を検証することで、個々の安全への意識が高まった。また、マニュアルを新たに作成し、他部署との連携も図り、低年齢児の事故について情報を共有した。

<p>5. 日課を大切にしたい継続性のある遊びはできたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の発達段階や個性に応じたかわりかかわりはできたか。 ・ 	<p>(0歳児) 日課は一年を通してほとんど変えずに過ごすことを大切にしたい。その中で微細遊びを意識し、発達段階に応じて子どもの成長を感じることができた。</p> <p>(1歳児) 一人ひとり月齢の差も大きく、言葉や生活面での成長が異なるため、グループ内でも更に月齢を分けて遊ぶことで、個々の成長を感じることができた。</p> <p>(2歳児) 日課の中で、個々の気持ちを尊重して保育を行うことで、主体性のある保育に繋がれたと感じる。</p>
--	---

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

コロナ禍の保育で園全体がどのように保育を進めていくか、試行錯誤の一年だった。行事や食育活動など、中止にせざる得ないものもあったが、子ども主体の保育を見直すきっかけにもなった。また、外部研修に行けない状態の中、園内研修に力を入れ、保育の質の向上に努めた。

5、今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
食育活動	保育者自身が、ミルク・離乳食の意味を知ると共に歯の生え方、手づかみ食べの意義についての知識を深め、低年齢児の食育活動の向上を図る。
歩行の発達、運動面の育ち	日課の中で、散歩以外に自然に「のぼる」「おりする」「くぐる」「またぐ」などの動作ができるような環境、活動を増やし、運動面の向上を図る。
保護者支援	初めての子育ての保護者の孤立を防ぎ、不安な思いや子育ての疑問に寄り添い、保育者自身の専門性も高める。
園の保育理念への保護者の理解	引き続き、保育内容の可視化に努め、保護者の保育に対する理解を深める。